



# 三保ダムは 県内で使う水道水の3割を届ける 「かながわの水がめ」です。

**昭**和54年(1979年)に完成した三保ダムは、高度経済成長期に急増した水需要に対応するため、県・神奈川県内広域水道企業団・東京発電(株)が共同で建設しました。ダムによってできた貯水池は「丹沢湖」と命名され、総貯水容量6490万m<sup>3</sup>を誇る「かながわの水がめ」として、県民の生活や産業の発展を支え、今も県内で使う水道水の約3割を担う水源となっています。

また、三保ダムは「洪水調節」「水道用水の確保」「発電」の3つの役割を持つ多目的ダムで、その役割をどんな時でも果たせるよう、設備を定期的に点検し、職員が24時間体制で河川

の流量や雨量等を監視しています。

## 地元の皆さまが名付けた「三保ダム」

丹沢湖がある地域は、昔は「三保地域」と呼ばれていて、223世帯1026人が暮らしていました。先祖伝来の住み慣れたふるさとを提供していただいた水没移転者の皆さまのご理解とご協力によりダムはつくられています。丹沢湖畔にある丹沢湖記念館の隣には、ダム建設時に水没した地域の家が「三保の家」として移築され、展示されています。

丹沢湖は「水がめ」としてだけでは

なく、「全国ダム湖100選」に選ばれた美しい湖で、ボートやバードウォッチング等を楽しめる「憩いの場」にもなっています。



## アッ! 空っぽ 城山湖 珍景



水をたたえた城山湖

## 城

山湖は、昭和40年(1965年)に、わが国初の大規模な純揚水式発電所として、相模川上流に建設された城山発電所の発電のための上池として築造された人造湖です。湖の周囲は「かながわの探鳥地50選」や「かながわの公園50選」にも選定されている水と緑の大変美しい場所です。

この城山湖が、昨年の秋、発電所の点検を行うために、10年ぶりに空っぽになりました。普段は見られない湖底や発電機の取水口が姿を現した珍景の見学会には、多くの方に参加していただきました。

城山湖を上池に持つ城山発電所は、電気の需要が多い時に、上池の城山湖の水を下池の津久井湖に落として発電しています。

昨年夏の猛暑では、クーラーの使用などによって電気の需要が大幅に増え、7月から9月の3か月の運転回数が、最近の10年間で最多を記録するなど、運転開始から50年以上が経過した今でも、安定的な電力供給のために重要な役割を果たしています。